

編集後記

久々に「歯学部ニュース」の編集に加わりました。以前の記憶では、原稿の集まり具合に関し、マイナスイメージが強かったのですが、思っていた以上に、諸先生方が協力的でした。特にお二人の学外の先生からは、締め切りの遙か前に原稿をいただき、感激しました。以前に比べ、いろいろな仕事が増えたため、誰彼によらずお忙しくなっているとは思いますが。その中で、時間を割いて寄稿された先生方には、この場を借りまして、御礼申し上げます。（渡邊孝一）

歯学部ニュースの編集にあたって、紙面作りは過去の企画の踏襲ではなく編集委員長の采配に大きく影響されるということを理解しました。川瀬委員長の明確なビジョン、的確なリーダーシップのお陰でスムーズに仕事ことができました。原稿執筆された皆様、ご協力いただいた同僚に感謝申し上げます。（鈴木政弘）

原稿を出して頂いた先生方有り難うございました。普段7階にこもっていますので、久しぶりに他の研究室におじゃましたりして歩き回りました。楽しく仕事をさせて頂きました。私は歯学部ニュースが是非今後も続いて、歯学部内の情報交換等に役立てばと思っています。（上松弘幸）

この歯学部ニュース平成12年度第2号も無事に発行できました。皆様が本号を目にする頃は、寒かった今年の冬も終わり、すっかり春めいているのでしょうか。ところで、電子メールで原稿を送付して頂いた何人かの先生には、添付文書が私のコンピュータのアプリケーションの関係で開けず、ご迷惑をかけて申し訳ありませんでした。また、私の担当した先生方は、年度末で何かと忙しい時期に、原稿を快く引き受けてくださり、締め切り日までに原稿をお寄せて下さったので、とても助かりました。この場を借りて、厚くお礼を申し上げます。（櫻井直樹）

巷はだいぶ春めいて来ました。来年度4月より歯学部も大きく変わりますが、私自身にも変革の年になりそうです。変わらなければなりません。しかし、今回の編集委員の仕事でも相変わらず関係者の方々に迷惑かけています。人の性格なんてそう簡単には変わりませんね。今後の自分が不安でたまらない今日この頃です。（平川 敬）

「ビジュアル化」という至上命題を頭の中でなんども繰り返しながら2年間模索してきました。平成12年度の歯学祭特集号と今号で多少実験的な試みをしてみました。また、今回は編集委員に取材と執筆もお願いして、「単なる原稿集め委員ではない」という自覚と自信を持ってもらうようにもしました。各編集委員がボランティア精神旺盛で快く引き受けてくれたことに深く感謝しています。このような「編集」作業を単なる雑用ととらえて廃刊を主張する方もありまじょうが、学内の雰囲気作りに楽しんで参画できるのはラッキーなことだという考え方もあるということを示すだけでも表現することができていれば、望外の幸せです。では、次号からの更なるステップアップを期待して、バトンタッチいたします。（川瀬知之）

歯学部ニュース

平成12年度第2号（通算94号）

発行者 新潟大学歯学部企画広報専門委員会

編集責任者 川瀬知之

編集委員 渡邊孝一、鈴木政弘、上松弘幸、
櫻井直樹、平川 敬

印刷所 (株)プライムステーション